

【活動報告レポート】

| 団体名 | 版画のあるまち企画懇談会 | 事業の進捗度 |
|---|--------------|--------|
| | | 100% |
| <p>1 この1年の活動の経過報告</p> <p>恵那市には、2002年に建設された「中山道広重美術館」があり、「木曾街道六十九次」の浮世絵などを展示している。また、2004年から「子ども版画コンクール」を実施し19回を迎えている。このコンクールに保育園・幼稚園、小学校、中学校から毎年3000点近くの応募がある。日本一の子ども版画コンクールだと思っている。</p> <p>恵那、中津川地域は昭和20年代から小学校、中学校へ版画教育を導入して児童、生徒に版画の指導を行ってきた。こうした地道な活動から版画文化が根付き、堂本隆雄、加藤公雄など著名な版画作家が生まれた。</p> <p>恵那市にはこうした背景があり、恵那にゆかりのある音楽家による「恵那人による恵那の音楽祭」が9月11日（日）開催された。音楽祭開催にちなんで9日（金）、10日（土）、11日（日）に「恵奈ゆかりの版画展」を恵那文化センター展示室で開催し、466人の方に観てもらった。</p> <p>その後、版画展に展示した郷土の版画家の作品や恵那・中津川の版画の歴史、簡単な版画の作り方などを掲載した作品報告集を作り小中学校、図書館などに配布した。</p> <p>郷土の版画家の作品や恵那・中津川の版画歴史、版画の制作過程を掲載することにより、子ども達の創作意欲を引き出し、版画の普及に努めることができた。また、こども版画コンクールの優秀作品を載せて、こども版画コンクールの意義と優秀作品の鑑賞を進めることができた。</p> | | |
| <p>2. この事業（活動）を行ったことによる効果</p> <p>この版画展を沢山の人に見てもらうことにより、恵那・中津川の版画文化に触れてもらい、版画が身近なものになり、版画制作を行う人が増えて恵那の版画文化の向上に寄与した。</p> <p>「恵奈ゆかりの版画展作品集」を小中学校、図書館、地域振興事務所に配布することに寄って、こどもたち市民の版画の普及に努めることができた。</p> <p>また、中山道広重美術館、こども版画コンクールへの理解、認識が広まった。</p> | | |

3この1年の活動の中で得られた（発生した）課題

- ・今回「恵奈ゆかりの版画展」の開催、「恵奈ゆかりの版画展作品集」の制作、配布を行ったが、「恵那を版画が似合うまち」にするためには、もっと地道な活動が必要である。
- ・こうした事業を実施するためには、資金が必要であり、資金がないと事業を実施できない。団体として力をつけて財政的な基盤を整えることが必要だと思った。
- ・大きく「版画のあるまち恵那」のまちづくりを実施して行くのには、行政の力を借りなければ実施できないと思った。
- ・恵那市の芸術・文化の向上という点では、版画だけではなく、絵画、書、彫塑などの幅広い芸術・文化の振興が必要であると思った。

4今後の展開や展望

今後も「版画のあるまち恵那」の推進に時間をかけて地道にしていきたい。

リニア新幹線が2027年に開通する。関東地方からの観光客が増えると考えられる。

恵那市は恵那駅前に中山道が通っている。駅前美術館として「中山道広重美術館」がある。恵那の中山道を充実し歩いて楽しいまちにできたらと思う。そのためには、恵那駅前の観光を点から線へ、線から面で捉えた長期的な計画とその財源を確保して、まちづくりを推進していく必要があると思う。

恵那市には、他にも岩村町に古い町並みの岩村商店街や佐藤一斎、下田歌子、三好学など人的観光資源がある。明智町にももの大正村があり、山本芳水がいる。

2027年のリニア新幹線開通までにまちを整備する必要があると考える。

私たちも恵那版画の会として、今年の七日市に行在所で版画のワークショップを開催して沢山の子どもに参加してもらい、中山道界隈の賑わいに協力した。まちなか市でも版画のワークショップを開催していくなど地道な活動をしている。

今後も恵那の芸術・文化を主体にしたまちづくりを推進していきたいと考えており、そのためには、私たち市民の努力もさることながら、行政のお力添えが必要であり、是非にご協力をお願いしたい。